

当院で陽子線治療を受けた肝細胞癌の患者様へ

「高度進行肝癌に対する陽子線治療の後方視的解析」へのご協力をお願い

これまでに当院では、のべ1,500名以上の肝細胞癌患者さんに陽子線治療を行って参りました。その有効性について学会や論文等で発表させて頂いておりますが、未だ陽子線治療が本邦における肝癌治療のガイドラインに加わるには至っておらず、私どもは標準治療の一つとして承認されるよう日々尽力しております。陽子線治療は、他の肝癌治療と比べ低侵襲であるため、ご高齢の患者さんや重度の基礎疾患をお持ちの患者さんに対しても安心してお受け頂く事が出来るため、そこは外科手術や抗悪性腫瘍薬と比べて優れる点だと考えております。(但し、陽子線治療でも治療出来ない場合や合併症が出現することはあります。)

一般的には治療が難しいとされる門脈腫瘍栓(血管内に腫瘍が入り込み詰まってしまう状況)を伴うような高度進行肝癌であっても、陽子線治療を行うことにより劇的に改善するケースを経験します。そこで、私たちは過去に治療を行った患者さんのデータを用いて、高度進行肝癌に対する陽子線治療の有効性を解析することに致しました。有効性が明らかにされれば、陽子線治療が肝細胞癌に対する有効な治療法としてさらに認識されるものと考えております。

該当する患者さんには特にご負担は生じません。また、皆様の個人情報特定されないように、データは匿名化した状態で解析します。どうか調査の趣旨をご理解いただきご承認をいただくようお願い申し上げます。この調査内容については筑波大学附属病院の臨床研究倫理審査委員会にて審査を受け、承諾を得る予定です。なお、調査に協力したくないご希望がある場合は、主治医の先生にお伝えしていただければ、調査対象から除外致しますのでお申し出ください。よろしくようお願い申し上げます。

対象者：これまで筑波大学附属病院で陽子線治療を行った門脈腫瘍栓を有する肝細胞癌患者

研究期間：倫理委員会承認後～2019年12月31日

研究方法：後方視的解析(これまで治療を行った患者さんのデータを解析します。)

試料情報の項目：年齢、性別、背景肝、原因疾患、基礎疾患、陽子線照射の理由、腫瘍部位、腫瘍個数、最大腫瘍径、腫瘍塞栓、遠隔転移、腹水、stage、Child-Pugh、ECOG-PS、WBC、Hb、plt、PT%、Alb、AST、ALT、 γ GTP、ALP、T-Bil、D-Bil、Tcho、ChE、AFP、AFP-L3、PIVKA2、診断日、治療開始日、治療日数、total GyE、照射プロトコール、局初再発の有無、局所再発日または最終無再発確認日、再発の有無、再発日または最終無再発確認日、転帰、死因、死亡日または最終生存確認日、合併症 など

試料・情報の第三者への提供：ありません

試料情報の管理責任者：筑波大学附属病院 消化器内科 福田邦明

本研究への参加を希望されない場合：

患者さんやご家族(ご遺族)が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

問い合わせ連絡先：

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

研究責任者：消化器内科 福田邦明

TEL 029-853-3218 (平日 10～16 時)

実施責任者：放射線腫瘍科 奥村俊之

TEL 029-853-7100 (平日 10～16 時)